

ライフル射撃競技とは？

(その概要と一般的な質問にお答えします。)



ライフル射撃競技は世界中で愛好され、オリンピックでも常に陸上競技、水泳競技に次いで3番目に参加国の多い人気種目です。

しかし、国際的に日本の競技力が高く評価されているにもかかわらず、国内では銃器が戦争の道具として発達した歴史的背景からかいろいろな誤解があり、これがスポーツとしてのライフル射撃の普及を阻害する大きな要因になっています。

射撃に興味があるが正しい知識が無いために断念しているとしたら残念なことです。

そこで、新潟県ライフル射撃協会では、この素晴らしいスポーツをより多くの人に知ってもらうため、このパンフレットを作成しました。

正しい知識とヤル気があれば、ライフル射撃競技は安全で楽しいスポーツなのです。

新潟県ライフル射撃協会

第 1 ライフル射撃競技の概要

簡単に言えば、①ライフル銃等を決められた②射撃姿勢で構え、③一定の距離に置かれた④静止標的を撃ち、その⑤合計点数を競うスポーツで、使用する銃と姿勢及び⑥射手のクラスの組み合わせにより多くの⑦種目に分かれています。

※よく、空中に打ち出された皿のようなクレーピジョンを撃つ競技と勘違いしている人がいますが、これは散弾銃を使用するクレー射撃競技でライフル射撃競技ではありません。また、ライフル射撃協会は狩猟を目的とした猟友会とも関係はなく、あくまでも標的射撃競技を管轄する競技団体です。

それでは、もう少し詳しく説明します。

1 ライフル銃等とは？

ライフル銃とは、一般的に銃身内にラセン状の溝(ライフルリング)が刻まれ、これにより弾丸が回転しながら発射される銃砲の総称です。

従って、このライフルリングがある銃なら、ピストルでも猟銃でもライフル銃と呼ぶことができます。

ただし、法律の規制が厳しい日本では、弾丸の代わりに光線を利用したビーム・ライフル銃を使用した競技をライフル射撃競技の一部に採用していますのでライフル銃等と表現しました。

現在、競技に使用されている主なライフル銃は次のとおりです。

○ スモール・ボア・ライフル(略称 SB)

22 口径の装薬弾を使用するライフル銃で、世界的に広く射撃競技に使用されています。

銃の装備によりスタンダードとフリーの 2 タイプに分類されますが、最近ではフリーが主流です。



〔スモール・ボア・フリー・ライフル〕

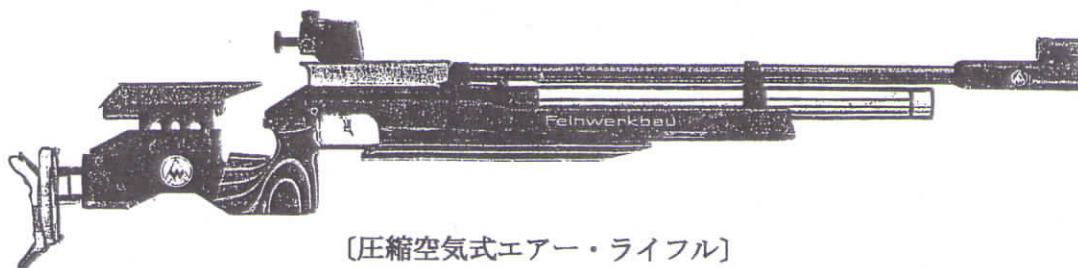
※22 口径を超えるものはラージ・ボア・ライフル(略称 LB)と呼ばれ、海外では盛んに競技が行われている国もありますが、日本では、射撃場が少ないため競技人口が限られてしまっています。

○ エアー・ライフル(略称 AR)

圧縮空気を利用して直径 4.5 ミリの鉛弾を発射する空気銃です。

予め空気を圧縮しておく圧縮空気式と一発毎に圧縮するポンプ式があります。

装薬銃に比べ、使用する弾丸が安価で設備も簡単(海外では射撃場ではなく体育館等に衝立てを設置しただけで大会を開催するところもあります)な事から、近年、ライフル射撃競技に参加するようになったアフリカやアジアの開発途上国で普及する一方、年少者(日本でも高校生射手が増えています)やサマー・バイアスロン等でも使用され、今や射撃競技の主流となりつつあります。

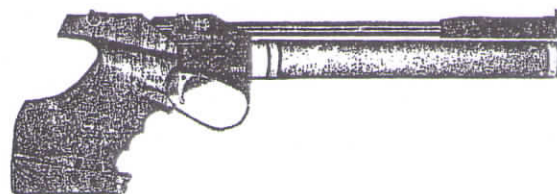


〔圧縮空気式エアー・ライフル〕

○ エアー・ピストル(略称 AP)

同じく圧縮空気を利用したピストルです。

ヨーロッパ等では少年でも簡単に購入できる銃なのですが、規制の厳しい日本では所持できる人数が制限されています。



〔圧縮空気式エアー・ピストル〕

○ ピストル(略称 FP、CP 等)

残念ながら、銃砲の規制が厳しい日本では、この競技に参加できるのは殆ど自衛隊員か警察官等となってしまいますので、ここでは詳しい解説は省略します。

○ ビーム・ライフル(略称 BR)

外見はスモール・ボア・ライフルのスタンダード・タイプとほぼ同じ仕様ですが、機関部は電子機器で弾丸の代わりに光線を発射する銃です。

法律の規制を受けませんので、誰でもどこでも出来ます。

2 射撃姿勢とは？

本来、射撃は射手が好きな姿勢で撃って構わないのですが、競技となると参加者が同じ条件で撃たなければ不公平になってしまいます。

そこで、競技では射撃姿勢を決め同じ姿勢で撃ちます。

現在、一般的な競技姿勢は次の3通りです。

伏射(Prone、略称P)



射撃姿勢は低くなるほど安定し、得点が高くなります。

従って、この姿勢は最も命中精度が高く、高得点で争われ、一発のミスがそのまま勝敗を分けることになります。

立射(Standing、略称S)

姿勢が高く不安定なため、高いバランス感覚が必要です。

銃は筋力で持ち上げるのではなく骨格で支えます。

競技でもっとも点数の差がつくのがこの姿勢です。



膝射(Kneeling、略称K)



銃の安定度では、伏射と立射の中間と言える姿勢です。

普段の生活ではこのような姿勢をとることはなく、自分の体格に合った姿勢を作り上げるにはある程度の時間が必要でしょう。

※この他にビーム・ライフルだけに、テーブルの上に両肘をついて撃つテーブル・シューティング(略称T)という姿勢があります。

3 一定の距離とは？

射撃線から標的までの距離は

- ・スモール・ボア・ライフルは 50 メートル
- ・エアー・ライフル(含む AP)とビーム・ライフルは 10 メートル
- ・ピストルは 25 メートルか 50 メートル

です。

※ラージ・ボアは公式には 300 メートルですが、150 メートル等距離を短くして行う場合があります。

4 静止標的とは？

文字どおり、標的が静止した状態で撃ちます。

銃の種類と距離により大きさが異なります。

標的は、紙製(ボール紙)で随時交換しながら撃ちますが、最近は標的の位置は空洞になっていてセンサーが弾の通過位置を計算して点数を表示する電子標的システムを採用する射撃場が増えています。

また、ビーム・ライフルではディスプレイが点数と着弾位置を表示します。

5 合計点数とは？

標的は中心が 10 点で外側に行くに従い点数が下がり、1 点の外は 0 点ということになります。ピストルでは 4 点の外は 0 点というものもあります。

競技では決められた弾数を撃ち、その合計点で順位を決定します。

但し、事前にサイト(照準器)調整のために行う試射は採点しません。

例えば、40 発競技なら満点は $10 \times 40 = 400$ 点となるわけですが、最近の大会では、さら

に上位者による 10 発の優勝決定戦(ファイナルマッチ)を行い、この点数を加算し最終的な順位を決定します。

このファイナルは 1 発毎に小数点以下第 1 位まで計算しますので、1 発の最高点は 10.9 点となり、最終的に満点は 509 点となります。

発射弾数(ファイナルと試射を除く)は、概ね 20 発、40 発、60 発、120 発のいずれかです。



[エアー・ライフル 9 号-G 標的 (実物大)]

6 射手のクラスとは？

ライフル射撃は年齢、性別等によるハンディーが比較的少ない競技ですが、それでも高校生と 50 才を過ぎた選手が同じ競技会に出場するのでは夫々の立場が違い過ぎます。

そこで、選手のクラス分けが行われる事になります。

通常、国体等では、他のスポーツと同じく

男子(M)、女子(W)、少年男子 (MJ)、少年女子 (WJ) 、
の 4 クラスに分かれて競技します。

しかし、一般競技会では学生と社会人という立場や、東日本、西日本という居住地、さらに年齢による区分等いろいろな分類で出場者を分けています。

7 種目とは？

ライフル射撃競技には多くの種目がありますが、代表的な種目は次の通りです。

○スモール・ボア・フリー・ライフル種目

- 50m ライフル男子伏射 60 発競技(略称 50mP60M)
- 50m ライフル女子伏射 60 発競技(略称 50mP60W)
- 50m ライフル男子 3 姿勢 120 発競技(略称 50m3×40M)
- 50m ライフル女子 3 姿勢 60 発競技(略称 50m3×20W)

○エアー・ライフル種目

- 10m エアー・ライフル男子伏射 60 発競技(略称 10mP60M)
- 10m エアー・ライフル男子立射 60 発競技(略称 10mS60M)
- 10m エアー・ライフル女子立射 40 発競技(略称 10mS40W)
- 10m エアー・ライフル少年男子立射 60 発競技(略称 10mS60MJ)
- 10m エアー・ライフル少年女子立射 40 発競技(略称 10mS40WJ)

○エアー・ピストル種目

- エアー・ピストル男子 60 発競技(略称 AP60M)
- エアー・ピストル女子 40 発競技(略称 AP40W)

○ビーム・ライフル種目

- ビーム・ライフル女子肘射 60 発競技(略称 BRT60W)
- ビーム・ライフル女子立射 40 発競技(略称 BRS40W)
- ビーム・ライフル少年男子立射 60 発競技(略称 BRS60MJ)
- ビーム・ライフル少年女子立射 40 発競技(略称 BRS40WJ)

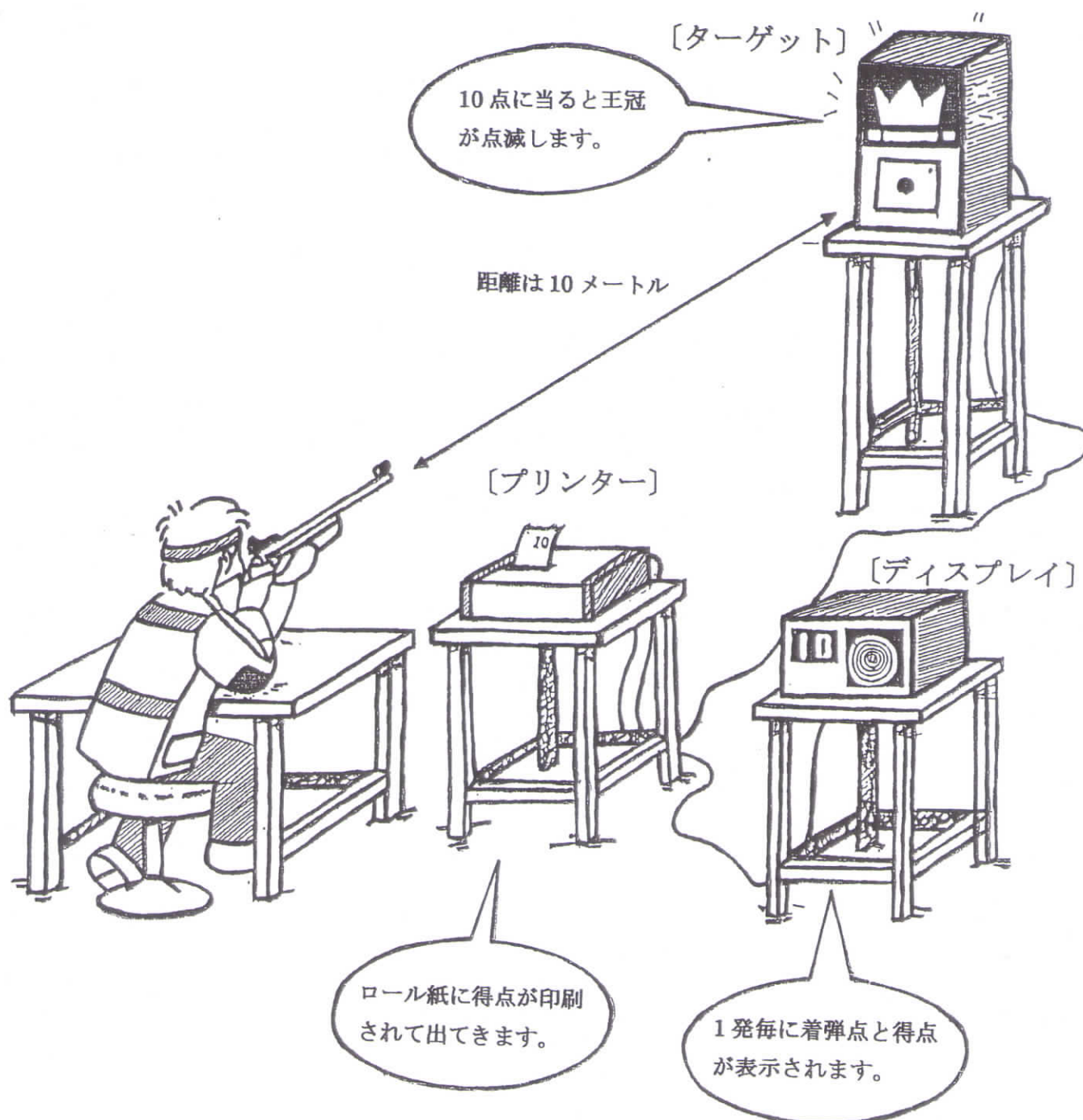
8 特にビーム・ライフル射撃競技について

銃砲の規制が厳しい日本では、少年から射撃競技を始める欧米選手に比べどうしてもスタートが遅くなりそれがハンディーとなっていました。

そこで、日本ライフル射撃協会では競技普及を図るため法律の規制を受けない光線を使った銃を開発し正式種目に採用しました。

それが、ビーム・ライフルです。

そのシステムは次のとおりです。



第2 疑問にお答えします。

あなたは、射撃はキケンというイメージを持っていませんか。

お金持ちのスポーツだと思いませんか。

多少とも知識があればこんな見当外れの疑問は持たないのでしょうが、残念な事にライフル射撃競技程誤解されているスポーツも珍しいかもしれません。

国際大会で多くの日本人選手が活躍していますが、何故かあまり報道されません。

我々の宣伝不足から誤解が生まれるのか、誤解がこの競技の報道と普及を阻害しているのかニワトリとタマゴ状態です。

そこで、次はそんな誤解をなくするため疑問にお答えします。

1 射撃はキケン？

これは大変な誤解です。

確かにライフル銃は人に向かって発射すれば人を殺傷する力が有ります。でも、競技に使う用具が人に当たるとキケンだから競技そのものがキケンと言うのは見当外れの理論です。

弓道やアーチェリー又は陸上の槍投げ、ハンマー投げ等、人に当ればそれこそキケンこのうえない用具を使用していますが、安全管理を徹底しているので誰もキケンな競技とは言いません。

射撃も全く同じです。

元々、安全はその競技の安全管理にかかっているもので、使う道具とは次元の違う問題なのですが、なぜ射撃だけが勘違いされるのでしょうか。

銃を使った犯罪が発生するせいかもしれませんが、射撃競技だけにキケンという誤ったイメージを持つ人が少なくありません。

当然ですが、競技の用具として銃を扱うライフル射撃協会の安全管理は非常に厳しく、その結果、協会発足以来全く事故を起こしたことはありません。

また、競技の性質上普通の競技では良くある捻挫や骨折などの怪我も全くありません。

ライフル射撃競技はキケンどころか最も安全なスポーツなのです。

2 射撃は目が良くないと出来ないの？

裸眼でも、メガネやコンタクトを使用した矯正でも、だいたい0.8以上の視力があれば大丈夫です。

一般の人が聞くと信じられないかもしれませんが、最近は目の見えない人でも聴力を利用した照準システムを使い射撃を楽しんでいる人がいます。

3 射撃はお金がかかるの？

これも良く聞かれる質問です。

程度の差は有るものの、用具にある程度の費用がかかるのはどのスポーツも同じです。

ただ、これが高いか安いかはその用具の耐用年数や使用頻度等、それぞれ状況が異なることから購入する時の値段で一律に判断する事はできません。

それに、同じ道具でも安い物もあれば高い物もありますし、最初は安物で揃えても上達するとより良いものが欲しくなるのは人間の心理です。

結局、安い高いはその人の価値判断の問題でしょう。

只、射撃はお金持ちのスポーツというのは完全な勘違いです。

そこで、今あなたが全くの初心者としてエア・ライフルを購入してこれから射撃を始める場合、最初に必要な用具の費用を紹介してみましょう。

但し、ここで紹介するのはいわゆる安物ではなく、初心者からベテランまで使用可能な平均的用具の価格です。

もちろん、これを超える高級品もありますが、それは個別に検討して下さい。

○エア・ライフル銃

0～約 30 万円

中古銃(メンテナンスに問題が無ければ性能は新品と変わりません)に関しては需要と供給の関係で、ダダで譲りたいという人がいれば 0 円(但し若干の手続き料金が必要です)という事もあり得ます。

新品なら約 30 万です。

※用具ではありませんが、銃を所持した場合、自宅に保管用のガン・ロッカー(2 万円位)を備え付けなければなりません。

○射撃ジャケット&パンツ

4 万～15 万円

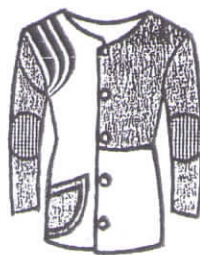
素材が比較的安価なキャンパス製のものと、割高な革製のものがあるため値段に幅があります。

最近はキャンパス製が主流です。

もちろん、もっと高いものもあります。

これも、中古でということも出来ますが、基本的に個人の体格に合わせたオーダーメイド製品なので、体格が似ていないと中古は難しいでしょう。

平均的な体格の人なら既製品もあります。



〔ジャケット〕



〔パンツ〕

○射撃用グローブ

7 千円～1 万円

銃を支える方の手に使います。



〔グローブ〕

この他に

○メガネが必要な人は射撃用メガネ

2 万円～4 万円

○伏射はスリング・ベルト

1 万円～2 万円

○立射は射撃用シューズ

2 万円～3 万 5 千円



〔メガネ〕



〔スリング〕



〔シューズ〕

が必需品です。

なお、消耗品のエア－・ライフル弾は 500 発 1 缶数百円です。

以上紹介した射撃用具はいずれも耐用年数が長く、数年から数十年の使用に耐える事が出来ます。

果たして高いか安いかわざらで判断してください。

4 ライフル射撃競技はどんな人がやっているの？

年齢的には中学生から 60 過ぎの人まで実に幅広く、職業もあらゆる分野の人が楽しんでいます。

よく、自衛隊か警察官の競技と勘違している人がいます。

確かに、ピストル競技は職業が限定されてしましますが、一般のライフル射撃競技は職業を問いません。

実にいろいろな職種の人達がそれぞれの立場で射撃を楽しんでいます。

また、最近では体に障害のある人の参加も大変増えています。

それは、ライフル射撃競技が身体に障害のある人と無い人が同じ競技会に出場できる数少ないスポーツの一つだからです。

また、身体に障害のある人達だけの大会も年々増加の一途を辿っていて、その中から海外の大会に挑戦する人達も増えて来ています。

当然、最近建設されるライフル射撃場はバリアフリーであることが義務付けられていますが、ソフト面でも障害のある人達がライフル射撃に入門しやすいよう支援組織の育成に力を入れています。

5 どんな大会があるの？

実に色々なタイプの大会が行われていますが、代表的なものは

- ・ 県大会、ブロック大会(北信越大会等)、東西日本、全日本等の地域別大会。
- ・ 高校、大学、社会人等立場別大会。
- ・ ジュニア、成人、50 歳以上のマスター等年齢別大会。

等です。

6 どうすれば銃を所持できるの？

(1) 先ず、法律で定められた年齢に達していなければなりません。

その年齢は、

エアー・ライフル銃 18歳(14歳)

その他の銃 20歳(18歳)

※()内は、ライフル射撃協会の登録会員で、国体の選手候補者に適用される特例年齢です。(詳しくは問い合わせして下さい)

(2) 次に、公安委員会が行う猟銃等所持のための講習会を受講し、講習の最後に行われる筆記試験に合格しなくてはなりません。

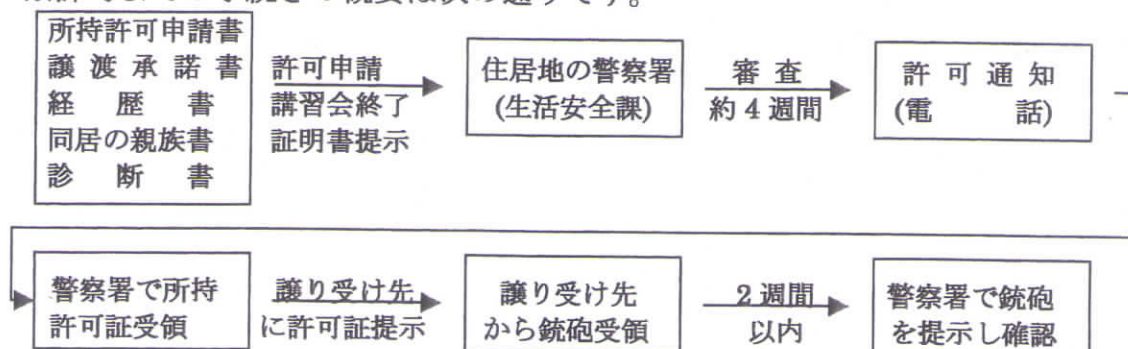
この試験に合格すると、講習会の終了証明書が交付されます。

(3) いよいよ銃の購入ですが、講習会に合格したら

a、エアー・ライフルを購入する場合は、購入予定先の銃砲店又は譲り受ける人から譲渡承諾書を書いてもらい、他の必要書類を添えて警察に所持許可申請書を提出し、許可されれば銃を受け取る事ができます。

但し、麻薬やアルコール中毒等、銃所持に関する法定の欠格事項に該当する人は所持出来ません。

※許可までの手続きの概要は次の通りです。



b、その他の競技銃については、一定の基準をクリアしたうえライフル射撃協会の推薦状が必要になりますので、入会后指導を受けて下さい。

7 ライフル射撃ができる場所は？

全国に多くの公認射撃場がありますし、最近では校内に射撃場を持つ高校や大学も増えています。

新潟県では、「新潟県立胎内ライフル射撃場」があります。50m、10m共に光学式電子標的を備えていて公式競技会を開催できる射撃場は全国で胎内射撃場だけです。

また、法律の規制を受けないビームライフルは、体育館や公民館の研修室等どこでも出来ますので、新潟県ライフル射撃協会ではこのような場所を利用して定期的に誰でも参加できるビーム教室を開いていますし、希望があれば機械の貸出しもしていますので、相談して下さい。

8 ライフル射撃場の騒音は？

一般のライフル射撃場では、騒音の心配は全くありません。

これをうるさいと言う人は、実際に一般のライフル射撃競技を見た事の無い人で、一度でも競技を見れば誤解は直ぐ解消するのですが、見もせずうるさいと勝手に思い込んでいる人が結構います。

小さな誤解なのですが、この誤解が実は射撃がキケンという誤解と並んでライフル射撃競技の普及を妨げる大きな要因の一つになっているので少し詳しく説明します。

この誤解の原因は、全国的にライフル射撃場とクレ射撃場の二つを併設した総合射撃場があり、クレとライフルの区別のつかない人が音の大きな散弾の発射音を聞いて、射撃場はうるさいと勝手に思い込んでしまうところにあると思います。

総合射撃場はクレ射撃場の騒音と地形利用の関係で、どうしても山間地に建設される場合が多くなります。

しかし、一般のライフル射撃場だけの単独施設なら騒音の心配は全くありません。

火薬を使わないエア・ライフルは当然静かですし、競技用の 22 口径スモール・ボア・ライフルも標的までの 50 メートルを基準に火薬量を押さえていることから、発射音は非常に小さくなっています。

但し、ライフルでも火薬量が格段に多いラージ・ボア・ライフルとピストルは大きな発射音がします。

しかし、ラージ・ボア・ライフルの射撃場は日本に数カ所しかなく、施設の基準が異なるため通常、一般のライフル射撃場とは分離していますし、同じく音の大きなピストル射撃場は警察や自衛隊の施設内です。

法律でも、22 口径以下のライフル射撃場は病院や人家など静謐を必要とする施設から最低 15 メートル以上分離れば建設に支障はないという規定になっています。

発射音が大きく施設に自然の地形を利用することが有利なクレ射撃場を山間地に建設するのなら分かりますが、一般のライフル射撃場(ラージ・ボアを除く)を単独で建設するなら、建設地をわざわざ通うのも不便な山の中にする理由は全くないのです。

特に、最近では高校生、大学生射手が射撃場利用者の中心となっています。

法律では、銃砲は許可を受けた本人自身が携帯運搬する規定になっていることから、自家用車を持たない高校生や大学生にとって射撃場までの距離が練習の効率に大きく影響します。

まさに、現在のライフル射撃の地域競技力は、将来を担う学生に如何に練習しやすい環境を提供できるかにかかっています。

高校や大学が校内に射撃場を建設する理由もここにあります。



〔22 口径 SB 弾〕〔30 口径 LA 弾〕

また、都市部では公立体育館の一角やビルの一室にエア・ライフルの射撃場を設けたり、最近ではスポーツ公園内に国体射撃場を整備する都道府県も増えています。

スポーツが多様化し選択肢が広がった昨今、わざわざ遠い射撃場まで通わなければならない不便な競技を選択する若者は少ないでしょう。

ライフル射撃場は山間地にという無知から生ずる誤解こそ、競技の普及、競技力向上、さらには施設利用の効率化を妨げる最大要因と言えるでしょう。

9 鉛公害は大丈夫？

全国的に射撃場の鉛公害問題が発生していますが、それはクレ射撃場の散弾に使用されている鉛が原因で、ライフル射撃場は鉛公害とは無縁です。

ライフル弾も弾頭は鉛でできていますが、空中のクレピジョンを狙い文字通り鉛を撒散らし回収が難しい散弾と異なり、静止標的を撃つライフル射撃場では鉛の弾頭は標的を撃ちぬいた後バックストップの一点に集中することから、これを定期的に回収するので鉛公害の心配はありません。

また、最近のライフル射撃場では直接バックストップに撃ち込まず、鉛回収装置の前に標的を設置し直接ここに撃ち込み鉛を回収するシステムを採用するところも増えてきました。

いずれにしても、ライフル射撃場が鉛公害の原因になることは全くありません。

10 新潟県ライフル射撃協会とはどんな団体？

新潟県ライフル射撃協会は、社団法人日本ライフル射撃協会の加盟団体で、新潟県におけるライフル射撃競技を統括する競技団体です。

活動は、競技の普及や技術の指導、競技会の開催、射撃競技用の銃砲所持に必要な推薦業務等、このスポーツに係わること全般です。

11 新潟県ライフル射撃協会に入会するには？

ライフル射撃競技を志し

○年齢 14 歳以上(未成年は親権者の同意が必要)

○県内に居住するか、勤務先が県内にある

○銃砲の所持に関する法定の欠格事項(麻薬中毒等)に該当しない

人なら誰でも入会できます。

但し、安全確保のため入会前に協会の指導期間が有り、この間に危険に対する配慮が欠けていると判断されると入会できない場合があります。

12 入会後の活動は？

原則として会費の納入以外の義務はないのですが、大きな競技会等では役員として協力をお願いする場合があります。

後は、それぞれの立場に応じて無理なくライフル射撃を楽しんで下さい。

第1 ライフル射撃競技の概要

- 1 ライフル銃等とは？
- 2 射撃姿勢とは？
- 3 一定の距離とは？
- 4 静止標的とは？
- 5 合計点数とは？
- 6 射手のクラスとは？
- 7 種目とは？
- 8 特にビーム・ライフル射撃競技について

第2 疑問にお答えします

- 1 射撃はキケン？
- 2 射撃は目が良くないと出来ないの？
- 3 射撃はお金がかかるの？
- 4 ライフル射撃競技はどんな人がやっているの？
- 5 どんな大会があるの？
- 6 どうすれば銃を所持できるの？
- 7 ライフル射撃ができる場所は？
- 8 ライフル射撃場の騒音は？
- 9 鉛公害は大丈夫？
- 10 新潟県ライフル射撃協会はどんな団体？
- 11 新潟県ライフル射撃協会に入会するには？
- 12 入会後の活動は？

以上、簡単にライフル射撃競技の概要をお話しすると共に一般的な質問にお答えしました。

さらに詳しく知りたい人は、ライフル射撃協会に直接問合わせて下さい。

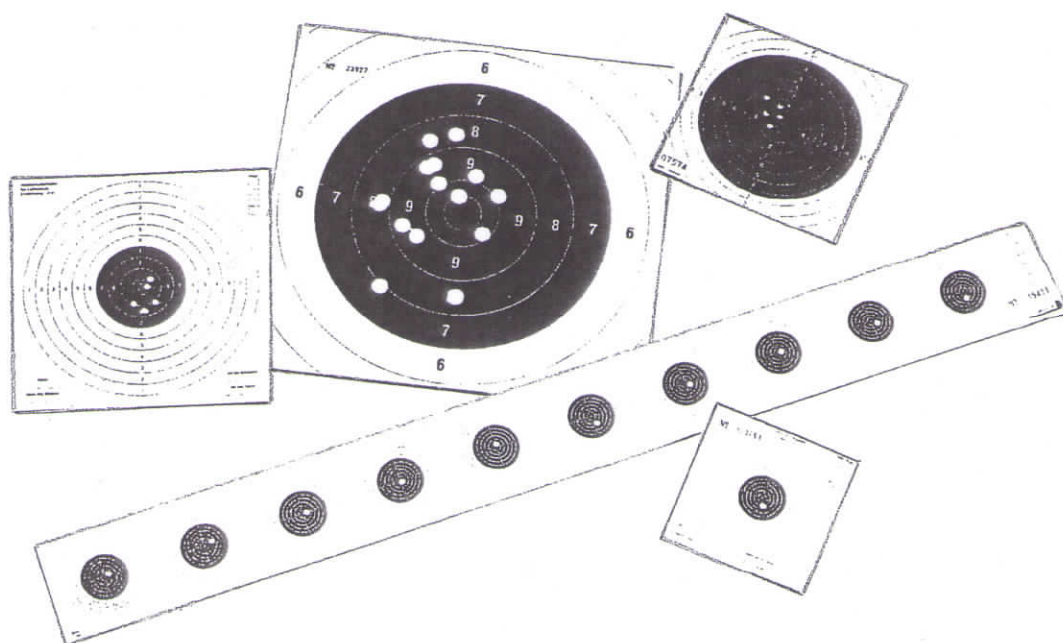
このスポーツを趣味として楽しむ人。

競技選手としてオリンピック等を目指す人。

それぞれの立場でライフル射撃競技に挑戦してみませんか。

ライフル射撃競技は安全で楽しいスポーツです。

新潟県ライフル射撃協会





新潟県ライフル射撃協会

H P <http://aguri.pinoko.jp/riful/>

Fax 025-231-3701 (事務局 小林)